

授 業 目 名	生命科学と医療倫理	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	1 年(前期)
担 当 教 員 名	沖田 任弘、岡田 安弘	単 位 数	1 単 位
		時 間 数	15 時 間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要・学習目標〕</p> <p>生命科学 (medical Science) は、生物の根源である生命現象の共通性と種及び個の特異性を検証する学問である。人間が対象である医療では、生命科学を積極的に導入し疾患の解明、予防と治療、健康の保持などに役立てる方向に進んでいるが、新たに医療倫理が問われるようになってきた。医療行為と倫理は、リハビリテーション医療のなかで重要な課題となるであろうから、医療のなかにおける患者の人権、法律、生と死のケアなど多視点から理解できるように指導する。</p>		
授 業 回 数	授 業 の 内 容		
第 1 回	医療倫理の必要性		
第 2 回	リハビリ関連職種の職業倫理		
第 3 回	生への介入(人工授精と体外受精など)		
第 4 回	死への介入(脳死、安楽死から尊厳死へ)		
第 5 回	終末期医療(ターミナル・ケアとホスピス 他)		
第 6 回	インフォームド・コンセント (ヒポクラデスの誓いからインフォームド・コンセントの医療へ)		
第 7 回	医療事故(事故と法律、事故防止体制 他)		
第 8 回	生命と全人的医療(医療と法と倫理についての総括と今後の課題)		
評 価 方 法	<p>レポートにて評価する。</p> <p>A(100～80点): テーマに沿った内容で、論理的妥当性のある意見を論述できている。</p> <p>B(79～70点): テーマに沿った内容で、自らの意見を述べることができている。</p> <p>C(69～60点): テーマの内容が不十分だが、講義内容がまとめられ学習成果が認められる。</p> <p>D(60点未満): A～Cに該当しないもの。また、C以上であったても正当な理由以外で期限内に提出ができなかった場合や、他人のレポートのコピーと認められる場合はDとする。</p>		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 なし(プリント配布)		
履 修 上 の 留 意 点	グループディスカッションでは積極的に自分の意見を述べること。		
メ ッ セ ー ジ	特になし		